

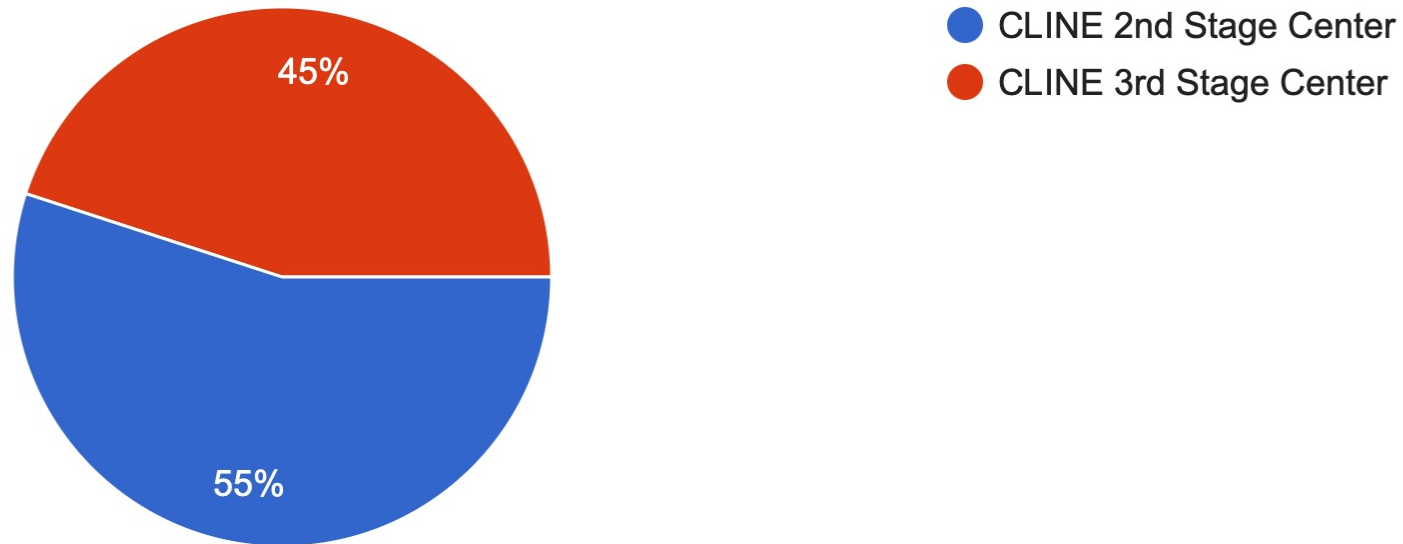
栃木DARC 自立訓練（生活訓練）利用者における

令和7年8月～令和8年1月のSIM（社会生活の自立度評価表 = Social Independence Measure）

回答者の内訳

入所・通所施設

20件の回答



CLINE 2nd Stage Centerが55%、CLINE 3rd Stage Centerが45%と、ほぼ均等な構成となっている。両施設の利用者がバランスよく含まれており、特定の施設への偏りは見られない。異なる回復段階の利用者が混在した構成であり、多様な支援ニーズが存在している状況が確認できる。

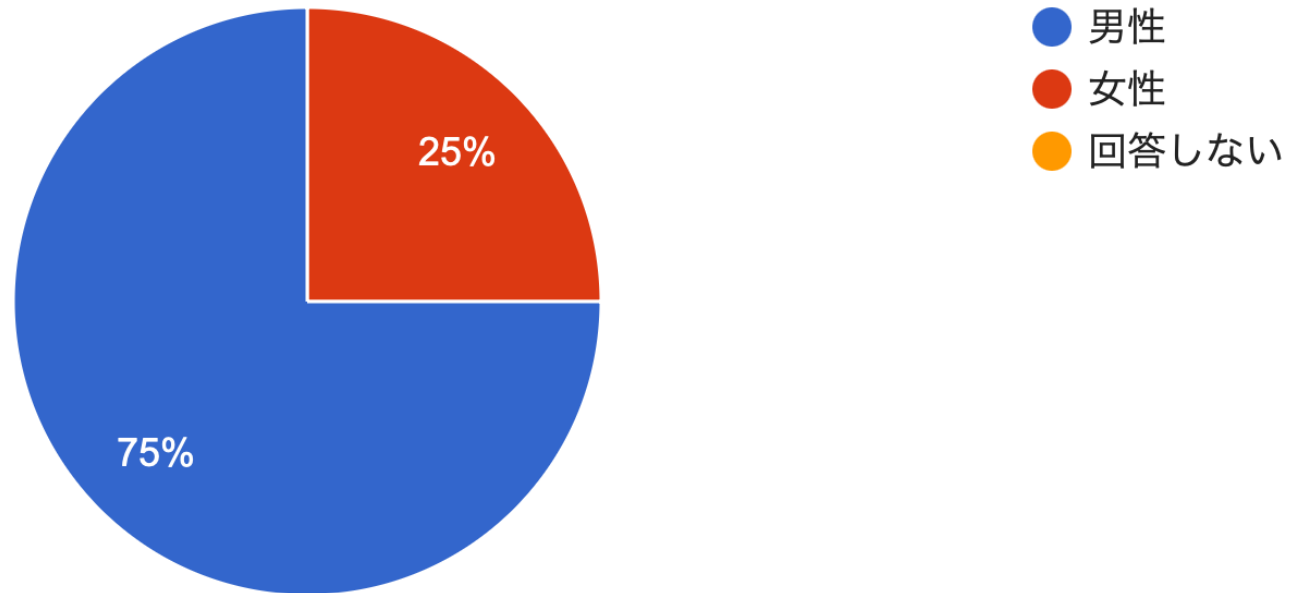
栃木DARC 自立訓練（生活訓練）利用者における

令和7年8月～令和8年1月のSIM（社会生活の自立度評価表 = Social Independence Measure）

回答者の内訳

性別

20件の回答



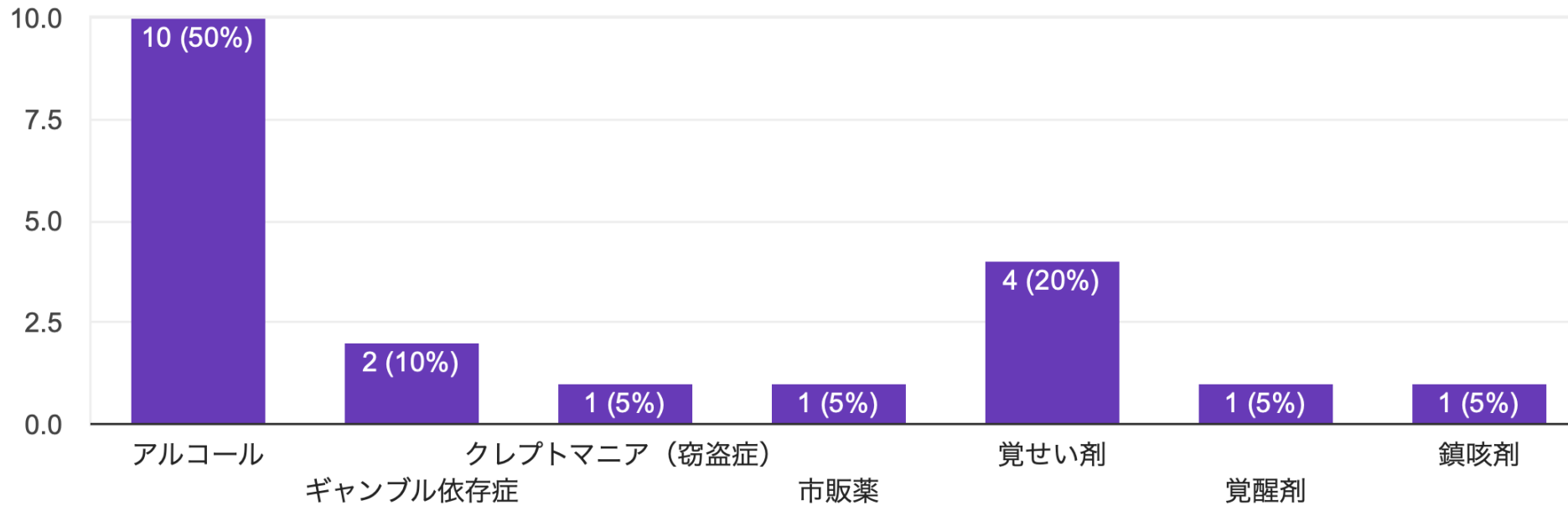
栃木DARC 自立訓練（生活訓練）利用者における

令和7年8月～令和8年1月のSIM（社会生活の自立度評価表 = Social Independence Measure）

回答者の内訳

問題薬物

20件の回答



アルコールが50%（n=20中10名）と最も多く、利用者の主たる課題として大きな割合を占めている。次いで覚せい剤が20%（4名）となっており、薬物依存も一定数含まれている構成である。その他の依存対象は少数に分散しており、多様な背景を持つ利用者が在籍していることが示唆される。

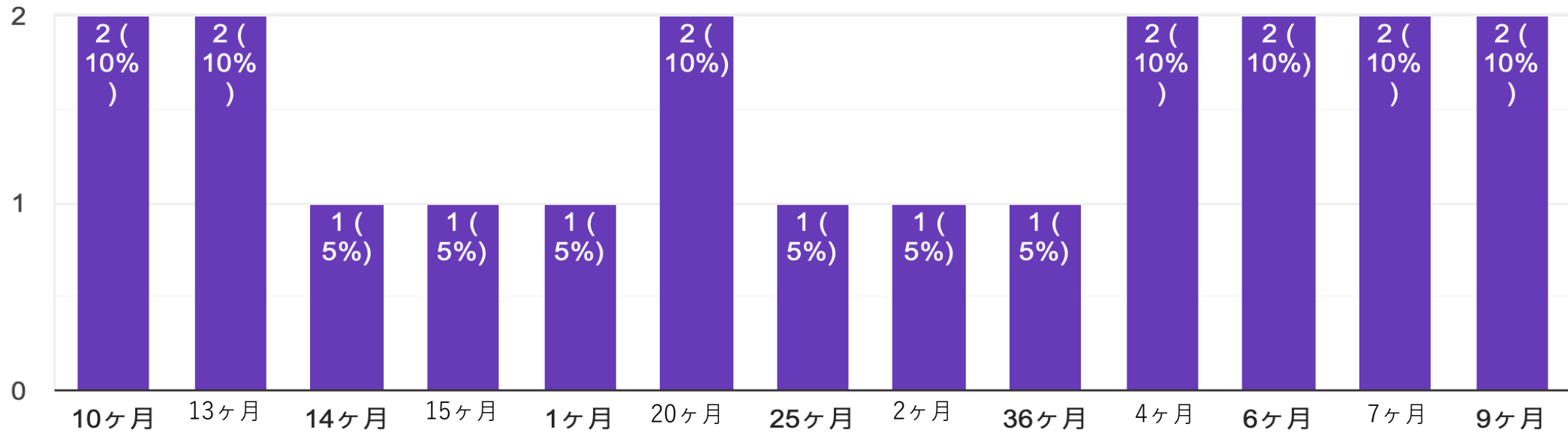
栃木DARC 自立訓練（生活訓練）利用者における

令和7年8月～令和8年1月のSIM（社会生活の自立度評価表＝Social Independence Measure）

回答者の内訳：利用期間

利用期間

20件の回答



利用期間は1ヶ月から36ヶ月まで幅広く分布しており、多様な在籍期間の利用者で構成されている。
特定の期間に偏りは少なく、各期間に均等に近い割合で分散している傾向が見られる。
新規利用者から長期利用者まで混在しており、段階の異なる回復プロセスが共存していることが示唆される。

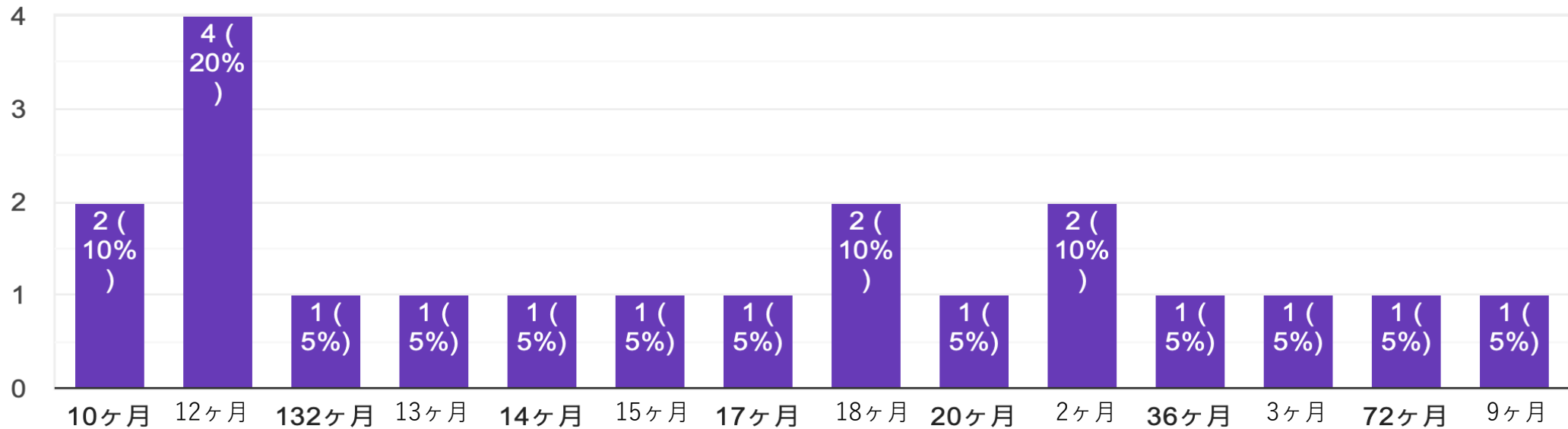
栃木DARC 自立訓練（生活訓練）利用者における

令和7年8月～令和8年1月のSIM（社会生活の自立度評価表 = Social Independence Measure）

回答者の内訳：クリーンタイム

クリーンタイム

20件の回答



クリーンタイムは2ヶ月から132ヶ月まで幅広く分布しており、回復期間に大きな幅が見られる。12ヶ月（20%）が最も多く、一定期間の回復を維持している利用者が中心となっている。短期から長期までの層が混在しており、段階に応じた支援の必要性がうかがえる。

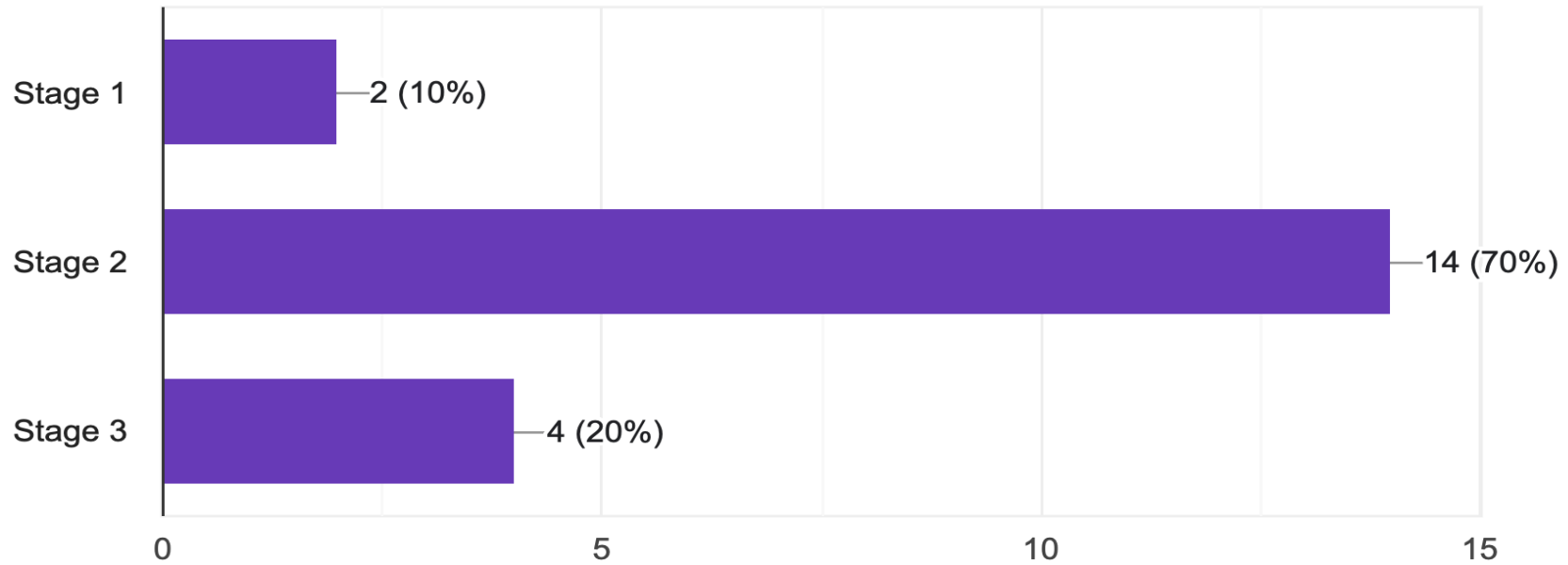
栃木DARC 自立訓練（生活訓練）利用者における

令和7年8月～令和8年1月のSIM（社会生活の自立度評価表 = Social Independence Measure）

回答者の内訳

Stage

20 件の回答



Stage2が70%（n=20中14名）と最も多く、中間段階の利用者が中心となっている構成である。Stage1は10%、Stage3は20%と、初期および後期段階の利用者は比較的少数にとどまっている。回復プロセスの中間段階にある利用者への支援が主軸となっている状況である。

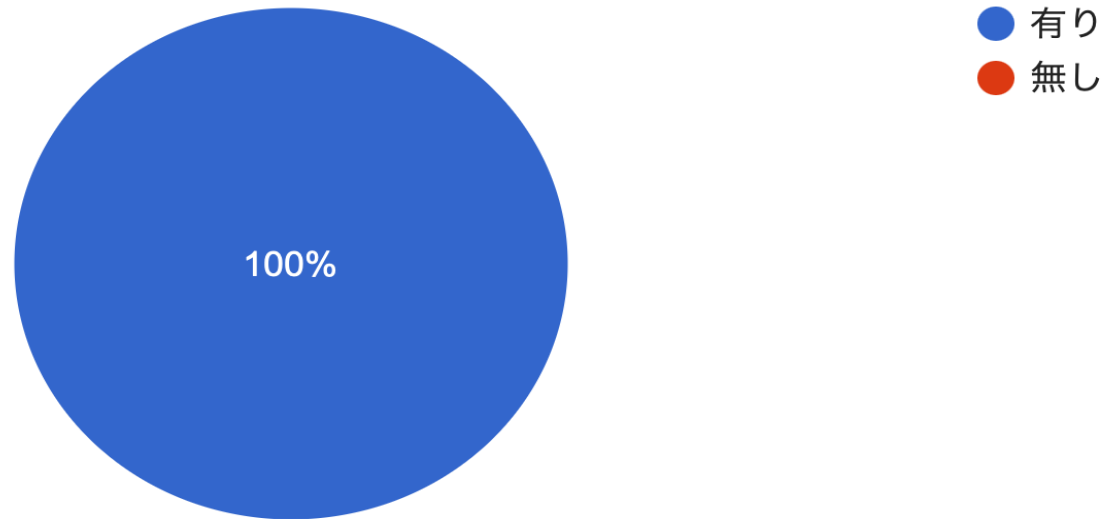
栃木DARC 自立訓練（生活訓練）利用者における

令和7年8月～令和8年1月のSIM（社会生活の自立度評価表 = Social Independence Measure）

回答者の内訳

通院の有無

20件の回答



生活訓練利用者の大多数は通院を継続しており、その背景には依存症を中心とした精神疾患の存在がある。加えて、ほぼ全員が自立支援医療を受給していることから、医療的支援との併用が前提となった利用者層であるといえる。

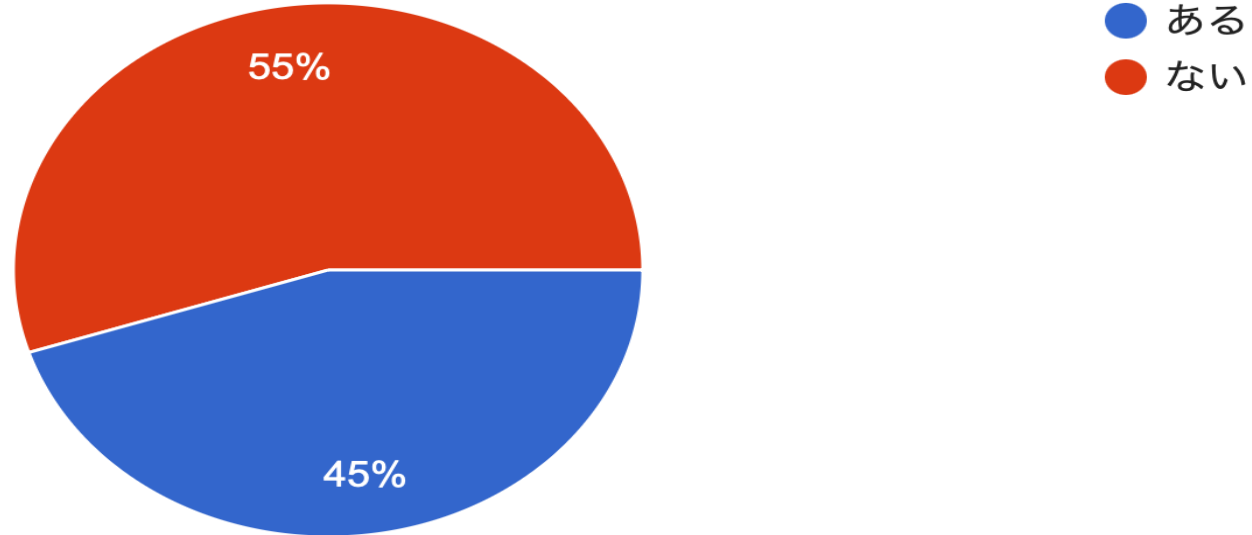
栃木DARC 自立訓練（生活訓練）利用者における

令和7年8月～令和8年1月のSIM（社会生活の自立度評価表 = Social Independence Measure）

回答者の内訳

依存症以外の診断名

20 件の回答



依存症以外の診断名を有する利用者が45%を占めており、約半数が併存障害を有していることが示される。依存症は単独ではなく、他の精神疾患や発達特性と併存するケースが一定数存在し、支援においては多面的なアセスメントと個別対応が求められる利用者層であるといえる。

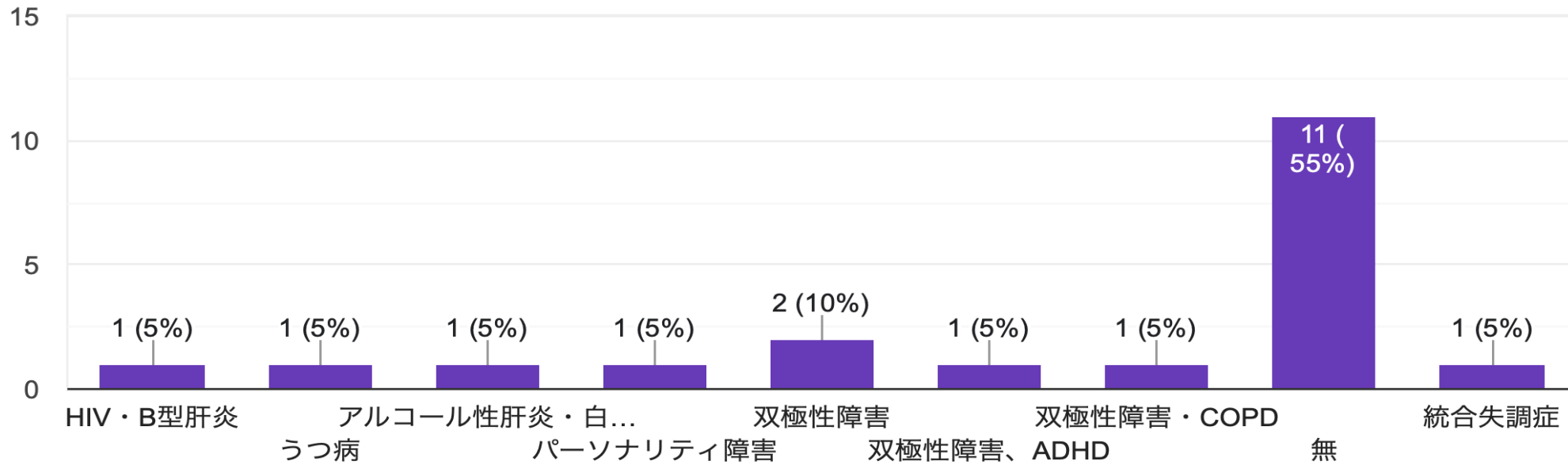
栃木DARC 自立訓練（生活訓練）利用者における

令和7年8月～令和8年1月のSIM（社会生活の自立度評価表 = Social Independence Measure）

回答者の内訳

依存症以外の診断名（下記に記入）

20件の回答



併存障害の内訳を見ると、その多くはうつ病や双極性障害、発達障害などの精神疾患で占められている。すなわち、依存症に加えて精神疾患を併存するケースが中心であり、支援においては精神面へのアプローチを含めた統合的な対応が不可欠であるといえる。

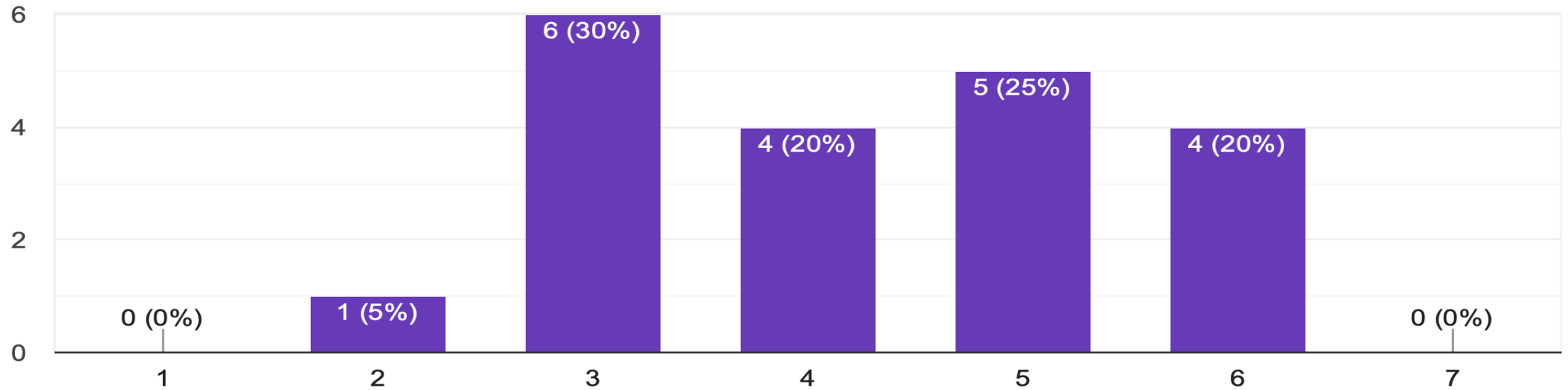
栃木DARC 自立訓練（生活訓練）利用者における

令和7年8月～令和8年1月のSIM（社会生活の自立度評価表 = Social Independence Measure）

毎日の社会生活を維持するための項目

1.健康管理

20件の回答



健康管理は3～5点に分布しており、見守りから中等度支援レベルが中心となっている。
一定の自己管理は可能であるが、安定性には個人差が見られる。
継続的な声かけや体調管理への支援が必要な層が多いことが示される。

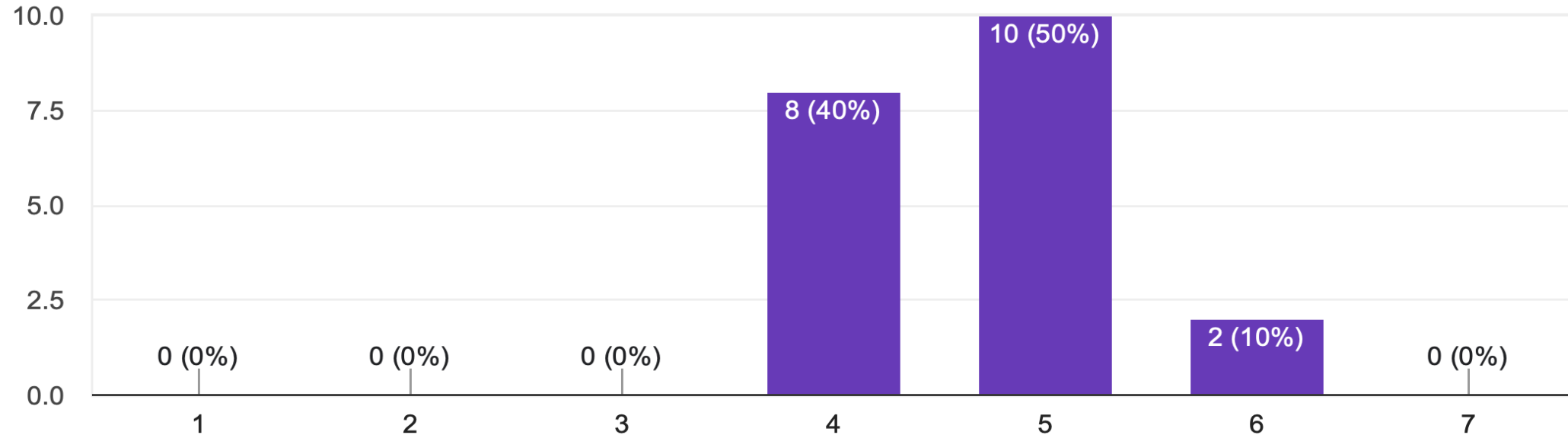
栃木DARC 自立訓練（生活訓練）利用者における

令和7年8月～令和8年1月のSIM（社会生活の自立度評価表 = Social Independence Measure）

毎日の社会生活を維持するための項目

2.金銭管理

20件の回答



金銭管理は4～5点に集中しており、比較的自立に近い水準にある。
日常的な金銭の扱いは概ね可能であるが、安定した管理には支援が求められる。
再発予防の観点からも継続的な確認と支援が重要な領域である。

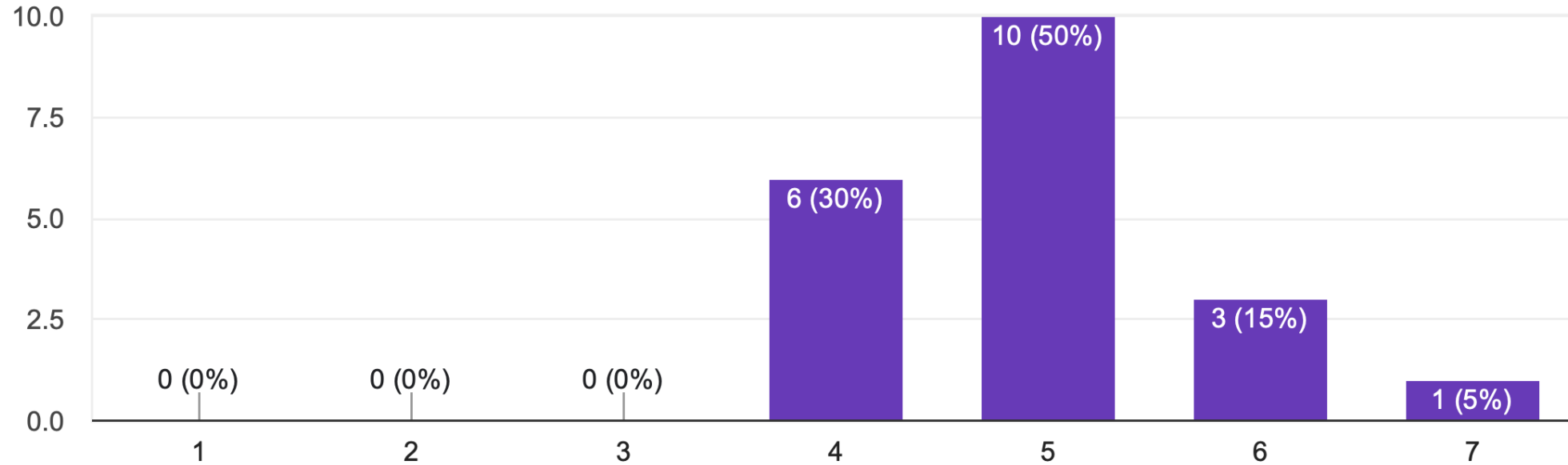
栃木DARC 自立訓練（生活訓練）利用者における

令和7年8月～令和8年1月のSIM（社会生活の自立度評価表 = Social Independence Measure）

毎日の社会生活を維持するための項目

3.身の回りの管理

20件の回答



身の回りの管理は5点を中心に6～7点も一定数見られ、自立度の高い領域である。
基本的な生活動作は多くの利用者が安定して遂行できている。
生活基盤としては比較的確立されている状況がうかがえる。

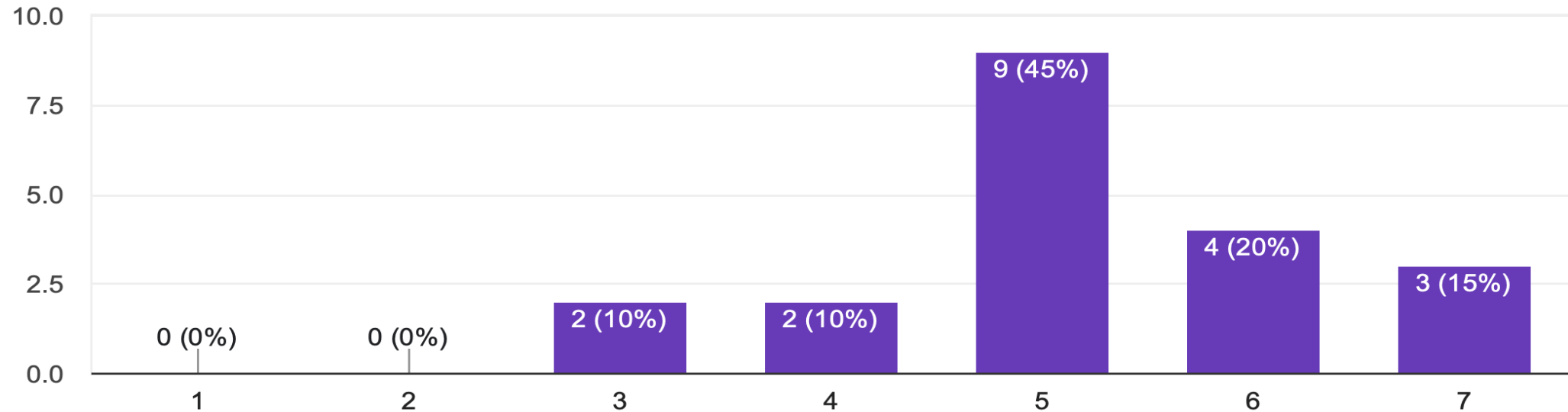
栃木DARC 自立訓練（生活訓練）利用者における

令和7年8月～令和8年1月のSIM（社会生活の自立度評価表 = Social Independence Measure）

毎日の社会生活を維持するための項目

4. 買い物（買い物先までの移動を除く）

20件の回答



買い物は5点を中心に幅広く分布しており、軽度支援から自立まで混在している。単独での実施は可能な利用者が多いが、状況によって支援が必要となる。判断力や計画性に対する支援が課題となる領域である。

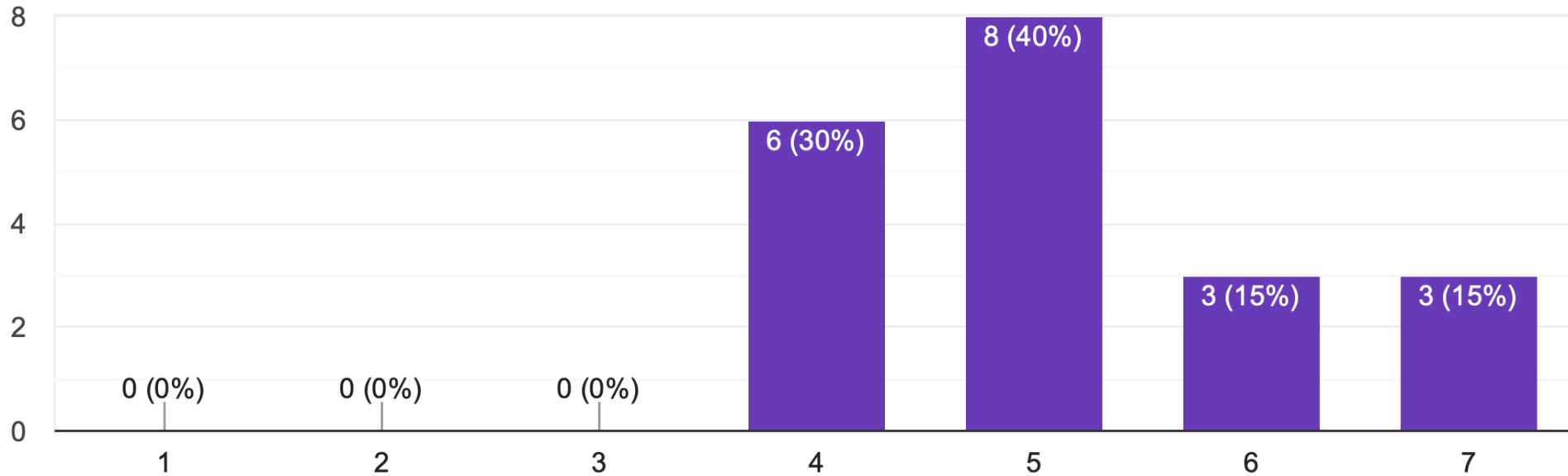
栃木DARC 自立訓練（生活訓練）利用者における

令和7年8月～令和8年1月のSIM（社会生活の自立度評価表 = Social Independence Measure）

毎日の社会生活を維持するための項目

5.家事活動（調理含まず）

20件の回答



家事活動は4～5点に集中しており、見守りから軽度支援レベルが中心である。
一定の遂行能力はあるものの、継続性や習慣化に課題が見られる。
日常生活の安定に向けた支援が必要な領域である。

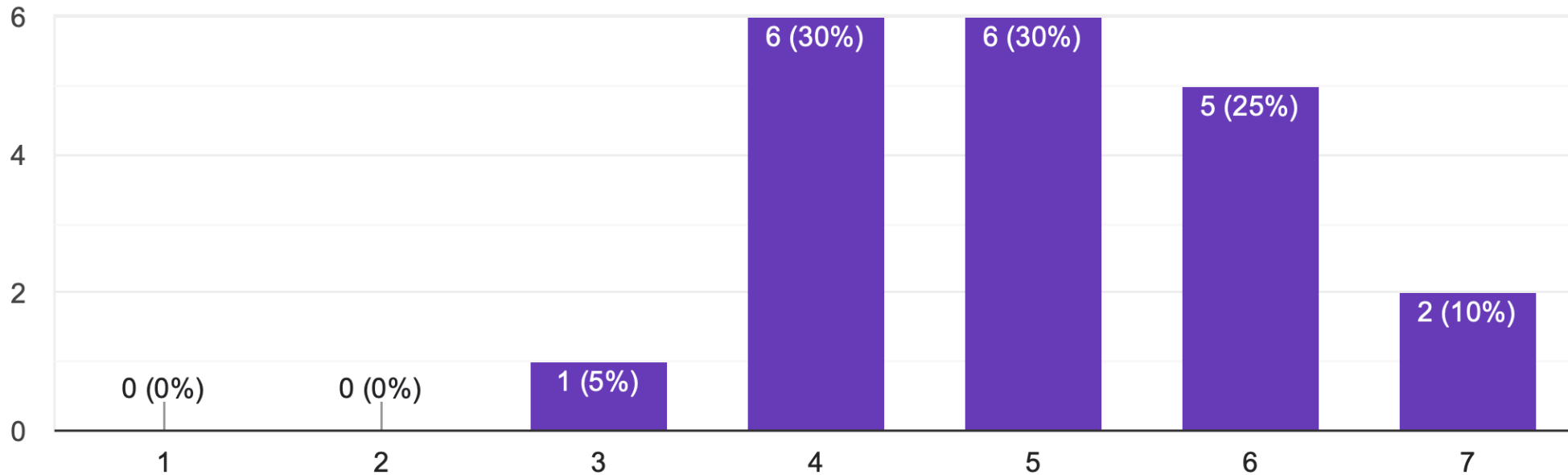
栃木DARC 自立訓練（生活訓練）利用者における

令和7年8月～令和8年1月のSIM（社会生活の自立度評価表 = Social Independence Measure）

毎日の社会生活を維持するための項目

6.調理

20件の回答



調理は4～6点に分布し、比較的自立に近い層が多い。
基本的な調理行為は可能であるが、状況に応じた支援が求められる。
生活スキルとして一定の獲得が見られる領域である。

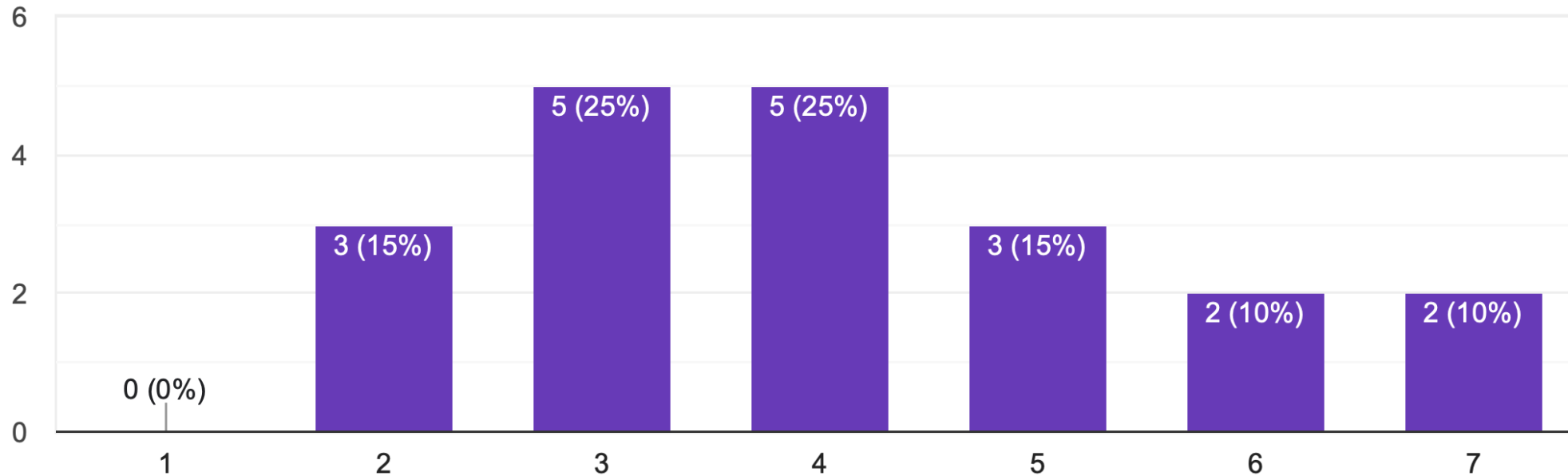
栃木DARC 自立訓練（生活訓練）利用者における

令和7年8月～令和8年1月のSIM（社会生活の自立度評価表 = Social Independence Measure）

毎日の社会生活を維持するための項目

7.生活のセルフマネジメント

20件の回答



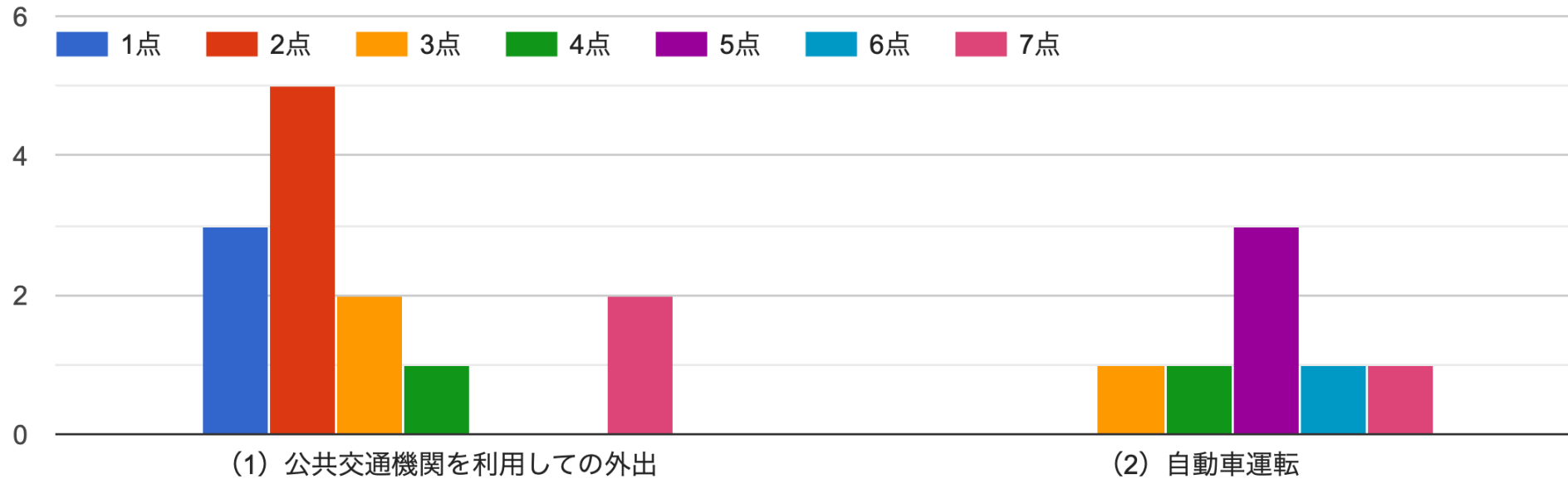
セルフマネジメントは3～4点を中心に分布し、中等度支援レベルが多い。
行動の自己調整や継続性に課題が見られる利用者が多い。
依存症支援において重要な課題領域であることが示唆される。

栃木DARC 自立訓練（生活訓練）利用者における

令和7年8月～令和8年1月のSIM（社会生活の自立度評価表 = Social Independence Measure）

社会の一員として積極的に参加するための項目

8. (1) 及び (2)（どちらかの項目にチェックを...チェックを入れた項目が選択されたとみなします）



外出能力は個人差が大きく、1～7点まで幅広く分布している。
交通手段の選択や移動手段により自立度に差が見られる。
社会参加の基盤として段階的な支援が必要な領域である。

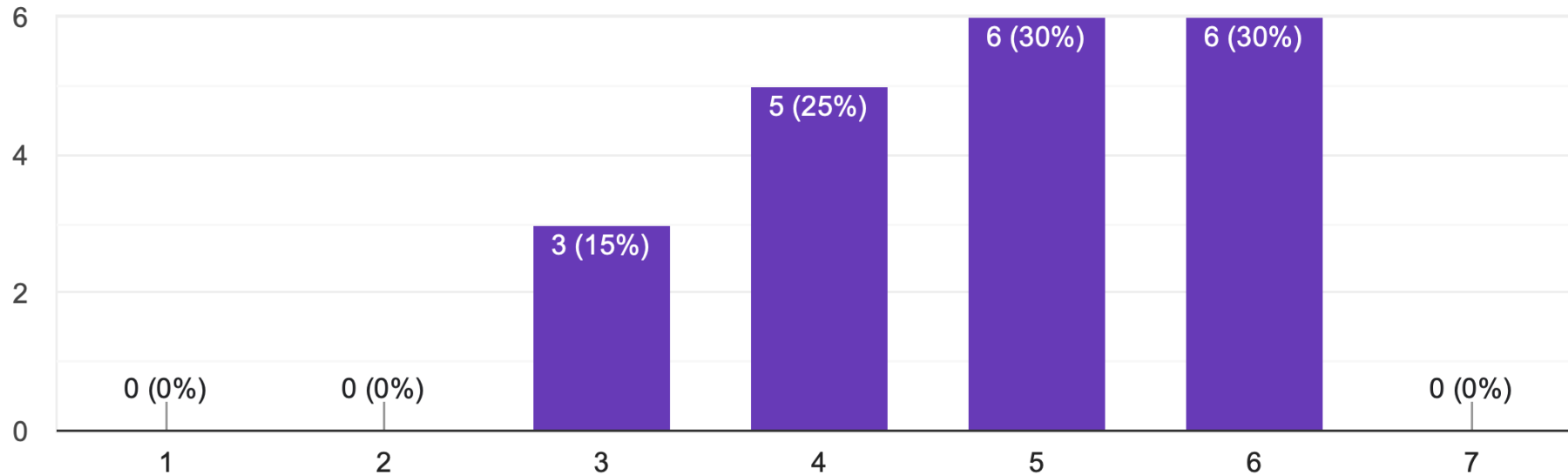
栃木DARC 自立訓練（生活訓練）利用者における

令和7年8月～令和8年1月のSIM（社会生活の自立度評価表 = Social Independence Measure）

社会の一員として積極的に参加するための項目

9.人間関係

20件の回答



人間関係は4～6点に集中しており、一定の対人機能は保たれている。
基本的な関係構築は可能であるが、安定性には課題が残る。
対人ストレスへの対応支援が重要な領域である。

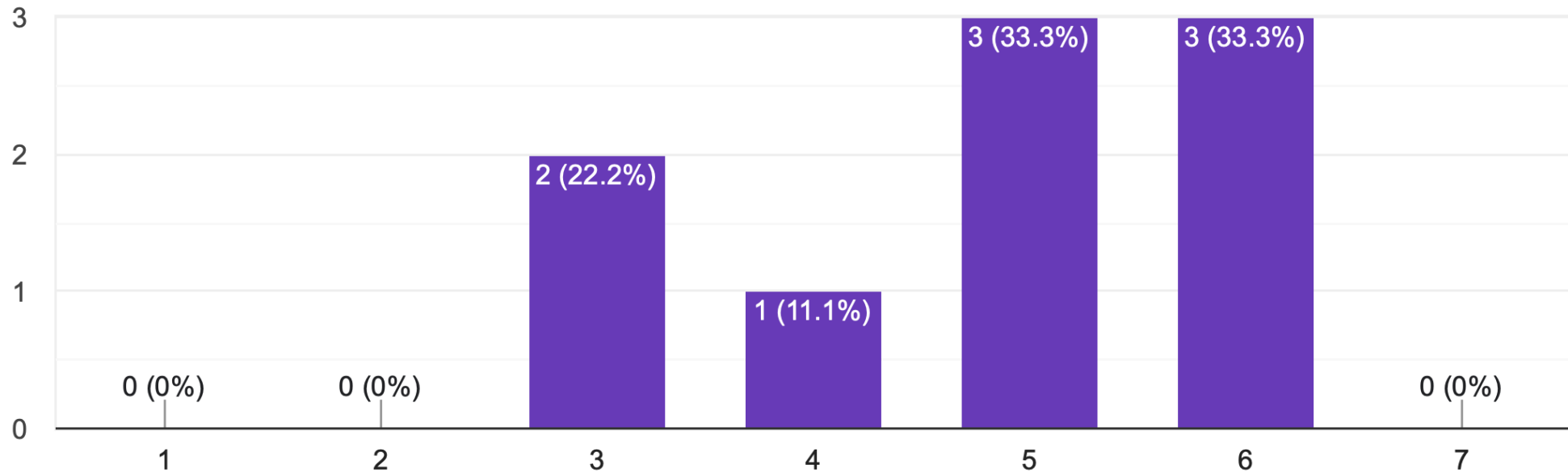
栃木DARC 自立訓練（生活訓練）利用者における

令和7年8月～令和8年1月のSIM（社会生活の自立度評価表 = Social Independence Measure）

社会の一員として積極的に参加するための項目

10.仕事/学校

9件の回答



仕事・学校は3～6点に分布し、ばらつきが大きい領域である。
参加状況や適応度には個人差が顕著に見られる。
社会復帰に向けた個別的支援が求められる項目である。

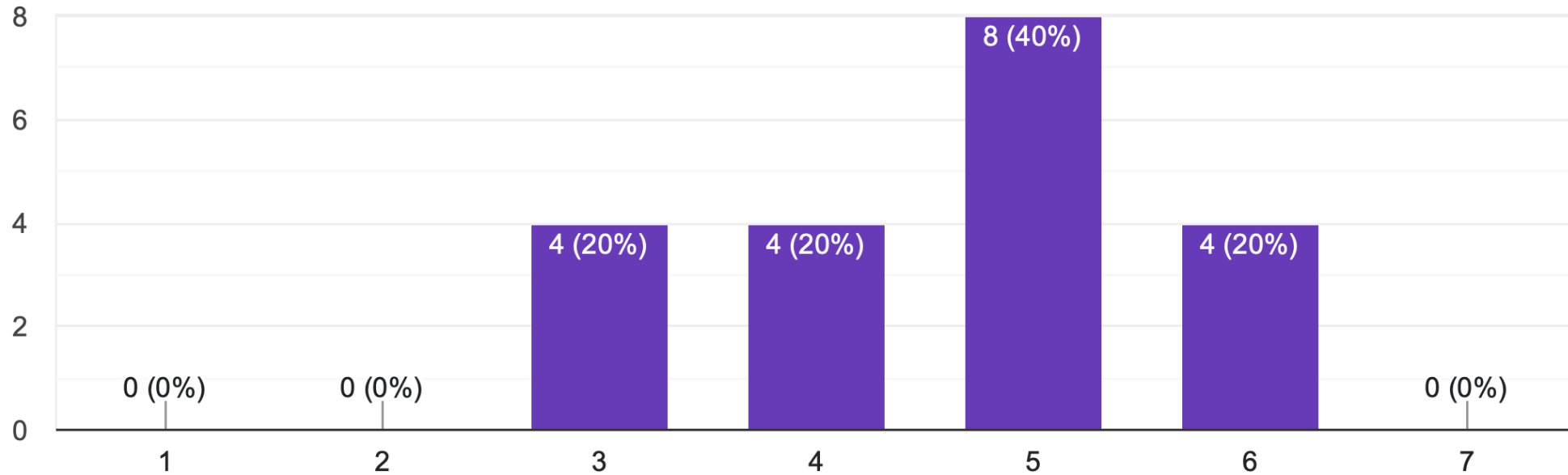
栃木DARC 自立訓練（生活訓練）利用者における

令和7年8月～令和8年1月のSIM（社会生活の自立度評価表 = Social Independence Measure）

社会の一員として積極的に参加するための項目

11.地域での余暇活動

20件の回答



余暇活動は4～5点を中心に分布し、一定の活動参加が見られる。

自発性や継続性にはばらつきがある。

生活の質向上に向けた支援が有効な領域である。

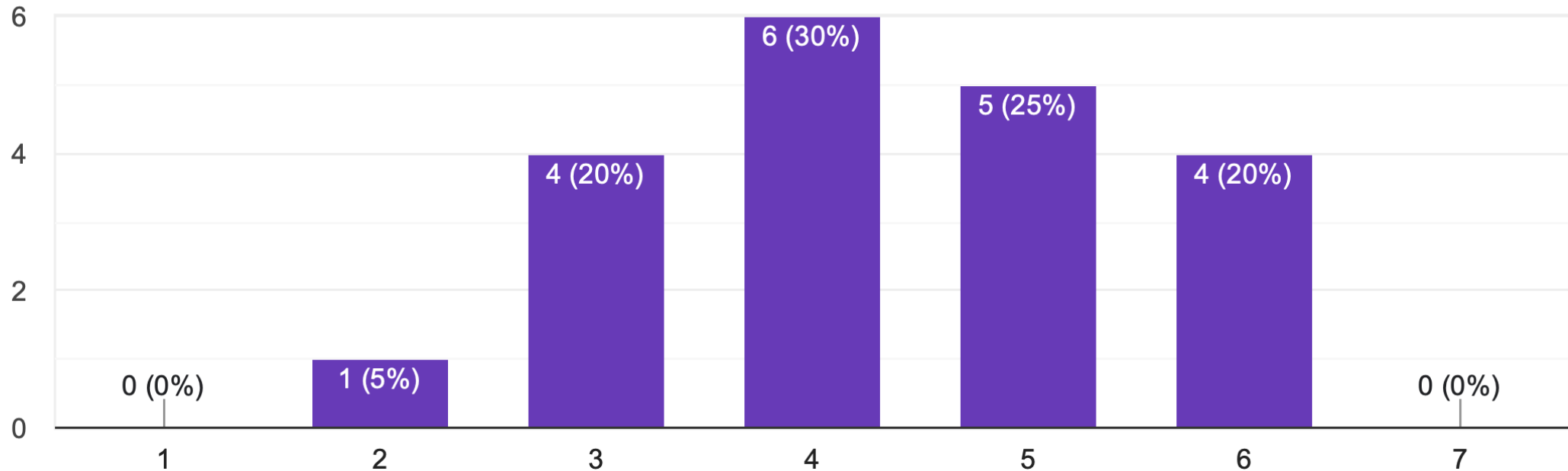
栃木DARC 自立訓練（生活訓練）利用者における

令和7年8月～令和8年1月のSIM（社会生活の自立度評価表 = Social Independence Measure）

社会の一員として積極的に参加するための項目

12. 日中活動

20件の回答



日中活動は4点を中心に分布し、見守りレベルの支援が多い。
活動への参加はあるが、安定性や継続性に課題が見られる。
生活リズムの確立に向けた支援が重要である。

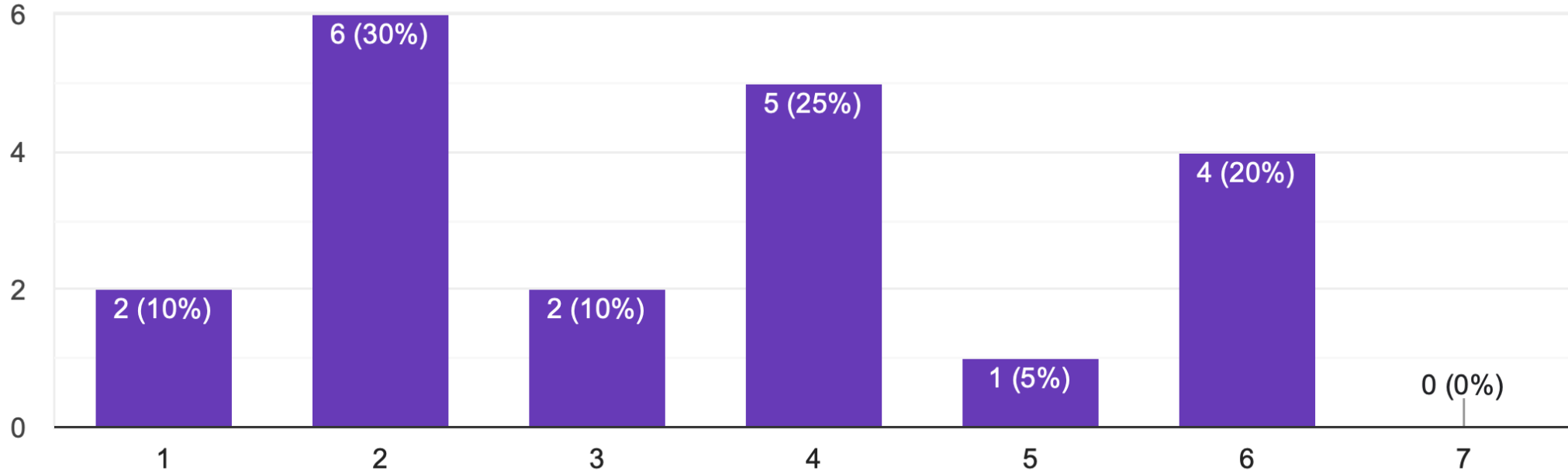
栃木DARC 自立訓練（生活訓練）利用者における

令和7年8月～令和8年1月のSIM（社会生活の自立度評価表 = Social Independence Measure）

社会の一員として積極的に参加するための項目

13.制度・サービス活用

20件の回答



制度・サービス活用は2～4点に分布し、支援依存度が比較的高い。
制度理解や活用に関して支援を必要とする利用者が多い。
社会資源の活用支援が重要な課題領域である。